

令和3年度第1回向日市総合教育会議 会議録

日 時：令和4年3月29日（火）

午後3時30分から午後4時55分まで

場 所：向日市役所 第1委員会室

出席者：安田市長、永野教育長、松本教育長職務代理者、中野教育委員、
畠山教育委員

事務局：清水教育部長、鈴木ふるさと創生推進部長、田邊教育部副部長兼学校
教育課担当課長、玉城教育部副部長兼文化資料館長、松石教育部
主席課長兼学校教育課長兼学校給食センター所長、安田ふるさと創
生推進部主席課長兼企画広報課長、山本教育総務課長、日下部生涯
学習課長、白波瀬教育総務課副課長兼係長、

意見聴取者：中西第2向陽小学校長、奥村勝山中学校長

傍聴者：なし

安田市長：

本日は、第1回総合教育会議を開催しましたところ、お忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。

また、平素から市政全般、とりわけ教育行政につきまして格別のご協力をいただいておりますこと感謝いたしております。

一昨年から新型コロナウイルス感染症の影響で、本市の教育現場においても、感染拡大防止のために、マスクして表情を読み取りにくい状況でのコミュニケーションや給食についても対面は避け、現在も黙食が続いているなど、子どもたちに長期にわたり制約がある厳しい学校生活となっております。その中でも、子どもたちの一生の思い出となる修学旅行や宿泊学習が、全ての学校で実施できたのも、関係者の皆様の努力によって無事実施できたことは感謝に堪えません。

まだしばらくこのコロナ禍が続くと思います。この厳しい状況の中でも、ど

のように教育をしていくのか、オンライン授業も取り入れながら、子どもたちの教育にとって何が一番いいのかを考え進めていきたいと考えております。

また、学校のリモートのソフトウェアも更新したことで、オンライン授業がやりやすい環境になりますが、過度にリモートに偏るのではなく、できる限り対面での授業、触れ合いも大切にしていただければと思っております。

さて、学校現場で抱えている課題が複雑かつ多様化し、子どもたちの環境も大きく変化している中、その課題解決に向けた取り組みが重要となっております。学校評議員で地域の方が学校に関わっていただいておりますが、学校を地域で盛り上げていただきたい。子どもたちは通学だけではなく、色々な事で地域の方に守られ、地域の支えがあって、成長しながら学校生活を送ることができていると思っております。

そういうことを色々考えながら、未来を担う子どもたちを育むためにも、児童生徒が学ぶ場のより一層の充実のためにも、コミュニティ・スクールという新しい仕組みを取り入れていきたいと思っておりますので、どうかよろしく申し上げます。

安田市長：

総合教育会議開会の前に、本日、傍聴を希望される方はおられますか。

白波瀬副課長：

おられません。

安田市長：

それでは、改めまして、ただいまから令和3年度第1回向日市総合教育会議を開催いたします。

それでは、議題に入らせていただきます。

議題1「小中学校におけるコミュニティ・スクールの導入について」事務局から説明をお願いします。

田邊副部長：

それでは本日の議題でございます、「小中学校におけるコミュニティ・スクールの導入について」ご説明させていただきます。

コミュニティ・スクールにつきましては、学校運営について地域住民や保護

者の意向が多様化、高度化している状況に的確に対応するため、地域住民や保護者のニーズを学校運営に一層適格に反映させる仕組みづくりが必要であることから、平成16年、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が一部改正されました。法の一部改正により、各教育委員会の判断で地域住民や保護者が一定の権限を持って学校運営に参画する合議制の機関として、学校運営協議会を設置することが可能となりました。その後、近年の急激な社会の変化に伴い、学校においては、いじめや暴力行為等の問題行動の発生、不登校児童生徒数の増加、特別な配慮を要する児童生徒数の増加など、多様な児童生徒及び保護者等への対応が必要な状況となっております。

一方、地域におきましても、家族形態の変化や価値観、ライフスタイルの多様化等により、地域社会における支え合いやつながりが希薄化することによって、家庭や地域の教育力の低下などが指摘されております。

このような中、児童生徒を取り巻く環境の変化はもとより、学校と地域が抱える課題は複雑かつ多様化しており、学校や地域、関係機関が一体となって社会総がかりでの教育による取組が不可欠であるとの認識の下、法が一部改正され、平成29年4月から学校運営協議会の設置が努力義務化されたところです。

それでは、資料の1ページ上段をご覧ください。まずコミュニティ・スクールと混同されることの多い学校運営協議会という言葉がございます。資料の上段の水色の部分にコミュニティ・スクール、その下の黄色に学校運営協議会を設置した学校のことをコミュニティ・スクールと呼びます。イコールではないのですが、学校運営協議会制度を設置し導入した学校のことをコミュニティ・スクールと呼ぶことといたします。

そのコミュニティ・スクールの役割は大きく3つございます。

1つ目は、コミュニティ・スクールの仕組みのイラストの右上に校長先生のイラストがありますが、学校運営協議会は校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること。

2つ目は、そのイラストの下にある、その基本方針に従って行っている学校運営に関する意見を教育委員会、または、校長に述べることができること。

3つ目は、そのイラストの左側にある教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べるができること、このように決定されております。

本市の小中学校へのコミュニティ・スクールの導入に当たり、導入前年度となる令和4年度中に制度導入の目的や学校評議員及び地域学校協働本部との違いなどについて、校長、教頭に周知するとともに、各学校の教職員が研修会

等への参加を通して、制度について理解を深めることが重要であると考えております。

また、先月には文部科学省のCSマイスター大谷裕美子氏を講師として、各校長を対象にオンラインではございましたが、コミュニティ・スクールの導入に向けた研修会を実施したところでございます。研修ではコミュニティ・スクール導入の目的はもとより、導入するメリット、導入前に準備しておくこと等についてもご教授いただき、とりわけコミュニティ・スクールと地域学校協働活動をつなぐコーディネーターの人选の重要性について理解を深めたところでございます。

今申しましたコーディネーターとは、資料1 ページ下段の図の左側のオレンジが、コミュニティ・スクールを導入した学校です。右側のグリーンが地域活動で、この間がコーディネーターの役割でございます。このコーディネーターの人选がとりわけ導入前年度には重要であること等、学んだところでございます。なお、コーディネーターを含め、学校運営協議会の委員選出については、学校評議員やPTA、本部役員、地域の方々、教職員等、校長とともに責任感を持って学校運営に参画できる人材を選出したいと考えており、任命に当たっては、校長が意見の申出ができることとしております。

次に、資料の2枚目の上段をご覧ください。先ほどご説明させていただいた、法律に規定されております学校運営協議会の制度の中身が詳しく示されているものでございますので、参考までにご覧ください。

次に、下段をご覧ください。全国におけるコミュニティ・スクールの導入状況でございます。全国におきましてコミュニティ・スクールを導入している学校は、令和3年5月1日現在、1万1,856校、約33%でございます。なお、京都府につきましては、資料にはございませんが、5月現在で小学校が78校、約38%、中学校が30校、約30%、大きく全国とはかけ離れていない状況でございます。また、5年前の平成29年と比較すると、それぞれ小学校、中学校、約3倍に導入が増えている状況でございます。

次に、資料の3枚目をご覧ください。本市におきましては、これまでから各学校に地域学校協働本部を設置しております。小学校、中学校ともに小学校は授業時間、いわゆる教育課程内にも地域の方が入って、学習支援等をしていただいているところでございます。中学校につきましては、放課後の学習支援では、コーディネーターとして、地域の大学生、可能な限り卒業生を募集し、部活動を引退した中学3年生を対象に放課後に学習支援に取り組んでいただいているところでございます。なお、この活動につきましては、2年間はコロナ

の状況もあり実績がございませんので、令和元年度までの実績となっております。まずは、この活動につきまして大きく膨らますことなく、この活動を復活させるということが1つの大きなコミュニティ・スクールを導入した際の大きな目標ではないかと考えているところでございます。資料の4枚目は、参考資料として根拠法律の抜粋となっております。

資料については以上でございます。

本市におきまして令和4年度に教職員への周知とともに、先ほど申し上げましたコーディネーターを含む委員の人選を進め、各学校に準備委員会を設置し、導入準備に取り組んでまいりたいと考えております。令和5年度からは、準備が整った学校から学校運営協議会を設置し活動を開始してまいりたいと存じます。

事務局からの説明は、以上でございます。

安田市長：

ただいま、事務局から「小中学校におけるコミュニティ・スクールの導入について」説明がありましたが、ご質問やご意見等ございますでしょうか。

松本委員：

コミュニティ・スクールについては、以前から教育委員会の場でも学習させていただき、大まかな制度は承知しておりますが、やはり、一番の課題は、人材の選出と学校運営協議会の中身の進行であると思います。

人材については、現在の地域においても、地域の自治会活動の縮小や高齢化の問題等もあり、適格な人材を見つけるのが難しいと感じます。

保護者のPTAの活動についても、やはり負担感があり、そこが課題で縮小傾向にあり、また役員不足の問題もある中で、このコミュニティ・スクールに参加していただくというところが、難しい状況だと思います。このような中では、やはり、現在の地域学校協働本部で様々な活動をされている方が中心になってくると思いますので、そちらを中心にあとどれだけ新たな人材を増やせるのかと思います。

校長先生も参加されておりますので、校長先生にお伺いします。

第2向陽小学校では、かなり前から地域とのつながりがあると思いますが、現在、どういった人選を考え、また、学校運営協議会の中で誰が主体となって、どのように進めていこうというイメージを持っておられるのか、お伺いします。

中西第2向陽小学校長：

第2向陽小学校長の中西でございます。よろしく申し上げます。

松本委員から人材の選出のこと、現在の活動の状況を踏まえてどのように進めていくのかというご質問がありましたので、まず、本校の今の学校評議員と、地域学校協働本部の委員として活動していただいている方について、ご報告いたします。

学校評議員は、地域内の諸団体の代表の方に出していただいております。具体的には、令和3年度では、物集女区長様、少年補導委員会の物集女支部長様、前民生委員の方、物集女青少年健全育成会議の会長様、農家組合の組合長様がメンバーとなり、本校の学校評議員の場合は運営してまいりました。地域内の充て職というような感じで、地域内の主な諸団体の方に参画いただいたというのが学校評議員会です。

地域学校協働本部は、メンバーが重複いたしますが、区長様と農家組合長様は学校評議員と兼ねて委員としてお願いしております。また、それに加えて、保護者の方で学校の図書ボランティアで活動されているボランティアの代表の方。それから、元保護者のクラブ活動の指導員に携わってくださっていた物集女在住の方。さらに元保護者になりますが、コーディネーターとして継続的に、10年ほどにわたり活動いただいている方とPTA会長、校長、教頭、教務主任の9名と教育委員会の事務局で地域学校協働本部は運営してまいりました。

第2向陽小学校といたしましては、冒頭に市長からもお話がありましたように、これまでから地域の方に守られているということと言えますと、地域は本当に熱い気持ちで、いつもやってきてくださいました。あいさつ運動、「あいさつどおり」と呼んでいますけれども、40年近く継続されており、非常に長い期間にわたって地域を挙げて子どもを育てるということに様々取り組んでおられる地域性もあります。

今後、このコミュニティ・スクール、学校運営協議会を立ち上げていくに当たり、やはり地域の諸団体の代表の方などを中心に、まずは考えていくべきかと思っております。それから、PTAの本部やOBの方にも加わっていただけたらと考えております。

学校に関わる様々なボランティア活動に積極的に参画し、貢献したいと思っておられる保護者もたくさんいらっしゃいます。そういった方を色々と探しながら、委員の人選を進めていきたいと思っております。

それから、現在、長い間コーディネーターの方一人をお願いしておりました。

この方は、実際に学校の指導にご協力いただく地域の方とのいろいろな調整をお願いし、また、取材に来ていただいてニュースの発行まで、大変多岐にわたる活動をお願いしておりました。先日地域学校協働本部会議の年度最終の会議がありましたが、コーディネーターは、複数確保していくことを、令和4年度は頑張ってお組んでいこうと会議で話をしておりました。

次に、誰が主体で進めていくのかというところは、実際に動かしていくときに、なかなか難しい面があるかと思えます。現在もコーディネーターの方になりお世話になりながら、地域の方との調整をしていただいております。やはり、最終的な判断は、学校が直接連絡を取り、教務主任や教頭が主に窓口となって実際動かしているところがございます。会議全体の運営、具体的な活動を誰がどの部分の仕事を担当するのか。それから、コーディネーターの方も複数と申しましたが、主に保護者向けで頑張っておいただく方と、地域向けで頑張っておいただく方など、その方の色々なつながりやお立場などを踏まえて、これから様々な検討、調整が必要ではないかと考えております。以上でございます。

安田市長：

コミュニティ・スクールを設置しなければならないで、初めにコミュニティ・スクールありきで導入すると、いいものが作れない。もとより学校にとって学校運営の重荷になり、やりづらくなってはいけません。もう一つ重要なことは、市役所や学校でも同じですが、世の中の流れ、変化が早く、その変化や保護者のニーズが多様化している中で、我々は、市民の皆様の求めていることに答えていくことが役目であり、学校においても、保護者の考えが変化している世の中で、委員を固定してしまうと、変化に対応できないと思えます。

例えば第4向陽小学校は、新しく開発された地域もあります。そこの意見をどうやって取り入れるのか、どのように新しい地域も含め参加していただけるのかも非常に重要であり、考えなければならない課題であると考えております。

畠山委員：

私は、新しく市民となりました。周りは、若い方が多いですが、以前から長くおられる方々と差があるように感じます。地域差もあるとは思いますが、長くおられる方との間に断絶みたいになるのが、向日市として心配なことではないかと思えます。

市長がおっしゃったように、以前から関わって協力いただいた方も大切にしながら、そこに新しい方々をどうやって加えていくのかが、地域的にも差があ

るかもしれませんが、課題であると考えています。新しく入って来られた方が、当事者として、自分たちもこの活動に関わる必要があるというように、まず、そういう意識を持っていただくところから始めないといけないと思います。

安田市長：

学校だけに限らず他の委員でも言えますが、やっていただける方にしていただくと、楽なんです。

向日市は、今までスクラップアンドビルドを繰り返してきた町で、縄文、弥生時代からずっと人が住み、かつて、都があり天皇がおられた町で、また、朝堂院もあったところなんです。なので、その時々に合わせて、住みやすい町にしてきたという歴史があります。そういう伝統は守っていくべきであり、今は、昭和の時代を頑張っておられた方に頼っていますが、今、畠山委員がおっしゃったように、教育委員会の新委員同様に、学校においても、新しい意見や発想を反映させるような方法を模索されていると思いますが、新しい方に入っていただくための方策が何か必要です。学校現場がよくご存じだとは思いますが、何かいい考えがありますか。

奥村勝山中学校長：

今、市長がおっしゃった話題は、本校の地域学校協働活動等のコーディネーターの方との間でよく話している内容です。やはり、どんどん新しい方が入って関わっていただかないと、活動が活性化しないし、継続しないので、どうしたらいいのかという話は非常に多いです。

一例ですが、本校では、図書ボランティアの方が20数名と比較的多く入っていただいています。昼の少しの時間に図書室の開室を手伝うなど、最近では、授業参観ができないこともあり、子どもの様子が見れる目的で、参加されている方もおられます。色々な活動の中でやや敷居が低いそういうところから、古くから関わっておられる方とつながりを持っていただきたい。こんな活動もあるよというところから、まず、色々な活動の中でどこでもいいから関わりを持っていただくところがスタートになるので、そういう間口をどれくらい作れるのかが課題だと学校の中で話させていただいております。

安田市長：

新しい市民会館が移動観覧席になりますが、例えば、小学3年生保護者自由参加の会で会費を取って立食のような形で、自由にお話しができる場を設ける

などは、教育長、そういったことをやるのはどうですか。

永野教育長：

ひとつのアイデアですね。畠山委員がおっしゃったように、やはり、新しく入って来られた方に対して、どういうアプローチの仕方をすればいいのかについては、難しいところがあります。すごくハードルの低いところから入っていかないと、これをやってください、コミュニティ・スクールはこうなんですという杓子定規な方法では、一方通行ではうまくいかないと思います。やはり学校です。学校の活動の中で入りやすいところからだと思います。どうしていくかというのは、色々な知恵をお借りしたいです。

安田市長：

今回は、何々学校の第何学年の保護者全員に案内して、軽く食事もしながら、何か上映するのもいいと思います。学校の活動等を説明しながら2時間ほどフリーで歓談していただくなど、そういった場を設けるとコミュニティや人とのつながりができると思います。会議に来てくださるのでは、人は集まらないと思います。

中野委員：

私はバイオリン教室を自宅でやっていますが、個人レッスンなので子どもの本質的なところが見えることがあります。性格はこうでも、見えていることと中身が違うのが分かることもよくあります。悩みを打ち明けられたり、不登校の子どもの悩みも聞くこともあります。私も実際、若いとき感じていましたが、学校と関係ない方が子どもの状況をよく知っていて、学校と関わりたいが、どうすればいいのか分からない方もいると思います。そういった方を探せないものかと思っています。

安田市長：

今はコロナ禍でなかなかコミュニティが形成されなくなり難しい状況ではありますが、教育委員や学校長等全体が集まって、忌憚ない意見をもらう場があってもいいと思います。

永野教育長：

教育委員の方にも、学校に出向いてもらい、PTAの方等色々な方とお話を

する場面を多く作りたいと思っています。以前は、地域学校協働活動を見学して様子を伺っていただいたこともあります。そういう中でご意見を出していただけたらと考えております。

安田市長：

今の保護者の方は、先生に遠慮するということはないですか。

奥村勝山中学校長：

保護者によりますが、思いもかけないことを言われる保護者もおられれば、そうでない方もおられます。ただ、以前ほど名前を言わずに言われる方は減ってきたと思います。

子どもに何か不利益があってはならないと気にして言われたことがあります。そういう傾向は以前よりは少なくなってきたかなと感じております。

安田市長：

私たちもそうですが、市政運営の中においても、少数派、恐らく1%も満たない一部の方のクレームや意見を言う方ばかりに振り回され、サイレントマジョリティーの方の意見は上がってこない。賛成と思う方は何も言われぬ。それは市政も教育も一緒だと思います。そういう意見をどうやってくみ取っていくか。そういう意見をもらうためには、話しやすい場をまず提供していかないといけないと思います。

今は、SNSとかメールもありますが、意見があっても、いざメールで意見を言おうと思うと面倒くさくなる。そこまで意識があっても意見を出すところまでできない。学校の中においても、保護者の間で話していても、意見を出すことはほとんどない。その保護者がPTA役員の方であれば意見は上がってきますが、ほとんどそうではないように感じます。

忌憚ないご意見から、解決策が出てくるかもしれません。他にご意見はありませんか。

松本委員：

一般の方や保護者の方に、学校に関心を持ってもらうという部分を含めて、この資料の中にも地域学校協働活動が色々ありますが、恐らく、子どもとこの地域学校協働本部の方との間のやり取りをまとめたものだと思いますが、例えば、こういう活動する日に一般の保護者の方に対して、参観のお知らせをされ

ているのか。こういった機会に間近で活動を見てもらうと、とてもいい活動をしていると認識してもらえます。自分のできる範囲でやろうかなとハードルも下がるきっかけにもなると思います。あくまで学校の中での活動なのか、子どもとその地域の方だけでやっていたのか、その辺どうですか。

中西第2 向陽小学校長：

お手元の資料3 ページの第2 向陽小学校の活動について、先ほど説明の中でありましたように、コロナ禍でほとんどが実施できませんでした。今、ご質問がありました、保護者にどれくらい呼びかけているかについて、例えば、読書活動においては、今年度は本の整理のみでしたが、例年は、読書ボランティアとして本の整理、子どもと対面して読み聞かせなど、広く保護者に参加を呼びかけております。花いっぱい運動、放課後の学習のお手伝いについても、地域、保護者の方に呼びかけて参加いただいております。今は、実施できていませんが、新体力テストの補助も保護者にご案内をしております。それから、歴史ツアーについては、向日市内の様々な古墳やお寺など、色々とグループで計画を立て、それぞれのグループごとに回るところに、そのグループの担当者として6年生の保護者が主に入っております。あとは、田植え関係やしめ縄づくりなどの農業関係、それから、竹細工などこういったものは物集女の農家組合の方に、あるいは、区長さんに呼びかけたり、また、コーディネーターさんから地域に話をされ、そこから参加できる方がいるかなど、地域の方に声をかけていただくような形になっております。

そういったことで保護者にもお知らせしているもの、参加いただいているもの、また違った形のものなど様々な形があるのが現状です。以上でございます。

松本委員：

実際、保護者や地域の方がどれくらい見に来られていますか。

中西第2 向陽小学校長：

読書や花いっぱい運動では、現役のPTAの会員の方が中心で、10名までが多いです。体力テストについては、20～30名の参加があり、かなり沢山の方に参加いただいております。例えば、体力測定のボールを投げ、走り幅跳び、立ち幅跳びの計測などを手伝ってくださいます。実際、子どもたちとも、やり取りがあり、「すごいな」とか声をかけてくださり、授業参観と実際に子どもとのコミュニケーションの場でもあるので、すごく多くの保護者に参加いた

だいておりました。内容にもよりますが、やはり、先ほどから議論になっていきますハードルが低いというか参加しやすい、子どもたちと何か一緒にできるものというのは、保護者も関心が高く、参加される数が多いと思います。以上でございます。

安田市長：

竹の子堀りとか多くの方に参加いただき、大変好評です。子どもを連れて何かレジャーの一環として、楽しめる場の提供ができれば、その中で、コミュニケーションを図りながら、保護者も喜んでいただけるのではないかと思います。他にご意見ございませんか。

島山委員：

市長などからご意見がありますように、やはり、まず新たな事業を実施するとき、あるいは、現状を知っていただくためには、いきなり呼んで何かやるというよりは、ハードルの低いことからしていただくとか、市長がおっしゃったように、みんなで集まってするのはすごくいいと思います。

まさにこの1年でやろうというときに、どうしてもまだなお、コロナが邪魔をするのではないか。コミュニティ・スクールは令和4年度の1年間で準備をして、令和5年度からできれば実施したいという話をしているわけですが、その大事な1年間で、果たして目指しているものができるのか、別のところでのいろんな活動もできるのかどうか。その活動に、制限が続く場合でも、それでも予定どおり令和4年度で準備をして令和5年度からスタートというふうにできるのか心配です。

安田市長：

実際には、これも目標であって、そこで必ず実施しないといけないということではないと思っております。期日を切って作ってしまうと、いいものがない。あと、とりあえずスタートを切ったとしても、任期を1年とするとか、変更できるような仕組みでないといけないと思います。

永野教育長：

コロナ禍で活動が難しいという状況がこの2年続いて、また令和4年度もどうなるのかという心配は確かにございます。一方、仮に1年停滞すると、導入が難しい状況になってこないかという心配もございます。

先ほど市長がおっしゃったように、導入してそれをそのまま維持するのではなく、状況に応じて活動に加わっていただく方とか、今まで頑張って活動されてきた方々も大切にしながら、今までの経験もありますので色々と模索しながら実施していきたい。

安田市長：

ただ1つチャンスと思うのは、私は以前から一貫してコミュニケーションは必要だと思っています。無駄な時間だと言われていた方が、やってよかったと言われる方が多いです。やはり、みんなで触れ合えるようになり、あの時間ほど無駄なものはないと思っていたが、今思うと、あれは大切であったという風になると思います。このコロナ禍でコミュニケーションが減ってきている今がある意味、チャンスかもしれないですね。コミュニケーションというのは、大切だと思い始める方が非常に多いので、そういうときをうまく取れ入れられたらいいんですけど。難しいとは思いますが、現場の校長先生が一番よくご存じなので、しっかり支えてくれるメンバーを選んでいただけたらいいと思います。

田邊副部長：

令和5年度からの本格実施に向けて、地域学校協働活動の再開とともにいう考え方も1つあると思いますが、その事業がコロナの影響でできないから、コミュニティ・スクールは導入しないほうが良いということではないと考えております。

先ほど3つの役割のうちの1つである、校長の運営方針について、これまで保護者、あるいは、児童生徒に対して十分に伝わっていたかどうかの検証をするチャンスだと思います。このコロナ禍で他の市町は、部活動を停止しているのに、何故向日市だけ実施できるのかと頻りに電話がありました。学校では、公民館にも配られている学校日より等で運営方針など十分説明していますし、保護者に対しても文章を渡しておりますが…。やはり、こういう会議体の中で、学校のコロナ対策の取組みなど正しい情報をしっかりお伝えするというのも、このコミュニティ・スクールの大きな役割ではないかと考えております。

安田市長：

自治体によって福祉などいろんな施策が違います。今は、弾力化で学校を選べますが、多くの子どもは通学区域の学校に通うわけです。その中で、特色のある学習をするべきだと思いますが、基本的なところで差異があってはいけな

い。地域の特徴を学校で取り入れて、しっかり教えていきたいということは、もちろんやるべきことであって、その他の指針など、例えば、学校によって修学旅行の行先が違う。この学校へ行けば、どこへ行けるとか。そういうところをどう考えていくのかについても、検討していかないといけないと思っております。

今、事務局から説明があったように、学校のことをよく知ってもらうチャンスでもあります。チャンスではあるけど、人選をどうするのかという問題がやはりあります。市においても同様に運営面などで厳しい方がいて仕事が滞ることもあります。それは学校でもあるわけです。それに時間を割くのであれば、子どもたちのために時間を割きたいというようなことがあって、だから、難しいと思います。

地域の方に来てもらう、理論的に自分たちの考えとか自分たちの状況や思いを述べてくれる方はいいですが、誰でも来てくださいますとなると、一方的に意見を述べる方や逆に、黙ってする方など様々で、学校運営に支障がでるとよくないと思います。

永野教育長：

これまでの説明の繰り返しになるかも知れませんが、コミュニティ・スクールという制度ありきでなくて、それぞれの学校に応じたその学校運営協議会の方を選出、推薦してもらって、学校の児童生徒の状況に応じて学校が目指すことを、校長先生方は提案するでしょうし、それに対して学校運営協議会の方で必要な支援など協議され、改善点やこういうことが手伝えるということなど意見を述べていただきたいと考えております。やはりお互い忌憚なく話しができるよう、一方通行ではなく、相互に意見が言える方を、学校においても、一番気を遣われていると思いますので、相談しながら一緒に探していきたいと考えております。

安田市長：

今回がいいチャンスだと思います。第4向陽小学校と寺戸中学校に桂川・洛西口の新市街周辺の方に入っていていただいて、モデルケースみたいにできたらいいと思います。あの辺りのマンションだけでも約1,000戸、大きいところは440戸、他に300戸単位も建っています。友達がいれば紹介してもらうなど、やはり、どのように集めるのかが一番の問題ですね。

せっかくに機会です。他にご意見ございませんか。

中野委員：

コロナ禍でコミュニケーションが減っているというお話がありましたが、このコロナ禍で学校の演奏会もなくなりました。そのため、コロナを理由に学校などの事業や活動がなくならなければいいなと思います。子どもたちは、何年たっても大人になっても、こういうことを覚えていると思うので、すごく大事にしてほしいと思います。

松本委員：

今一番人材面が問題だと思います。あと、特に学校の教職員の方に対し、今後研修等をしていくとお聞きしていますが、教職員の理解というのが非常に大事だと思います。また、地域の方が学校の授業に加わるのを、嫌がる先生がいたり、協力ができないなどあれば、うまくいかないこともあるので、その辺も1つの課題であると思います。そこを、研修等を通じて十分理解していただく必要があります。

冒頭で市長がおっしゃったように、特に学校の校長、教頭先生に過度な負担がかかるようでは元も子もないし、やる意味がないので、事務局等と十分連携をとって設定していただいて、人材によっては、全部任せてできるという場合もあるかもしれないので、学校の負担が極力ないように考えていただきたいと思います。

安田市長：

そうですね。例えば学校側が今こういう取り組みをしているところを、きちんと説明をして、その答えをもらう。それともう一つは、パブリックコメントみたいな感じで、こういう考え方があるがどう思うか、また、次のときまでに考えておいて欲しいと投げてもらいたいと思います。

市でも、なぜパブリックコメントをしているかという、「ああ、なるほど」と、気づかされることや違う視点のご意見もあったり、感心させられることがあります。パブコメによって直すところはあるんです。そういう意見を聞けるよう、そういう会議の場では、そういうふうに投げかけたり、聞いて返せるような形でやるととてもいいと思います。教育長、どうですか。

永野教育長：

教育のパブリックコメントは、最近では意見が少ないように思います。

教育委員会がこの間直接、意見を聞き、やり取りするような場は少なかった

こともあり、意見がなかったわけではないと思うんですが。実際各学校の評議員さんとの間では、そういうやり取りができていたのではないかと思います。具体的なことは、校長先生方に紹介していただければと思います。

奥村勝山中学校長：

本校の学校評議員の方は非常に教育について思いの深い方が多くおられますので、毎回非常に厳しい意見をいただきます。学校側が納得するような意見がほとんどです。学期に1回ぐらいですが、見に来ていただく方からは、「こんなふうに先生方の授業は見えてるよ」とか、もしくは、「学校について、こういうふうなご意見を地域から持ってこられているよ」と、先生方に返すよい機会になっていると思います。そのため、現在の学校評議員会の場っていうのは貴重な機会だと思っております。

今回のコミュニティ・スクールとの関わりで言いますと、本校の場合では、その学校評議員会は評議員会としてあり、学校の地域学校協働活動は別にございます。ですから、コーディネーターの方と学校の担当者が話をして、図書ボランティアさんは図書ボランティアさんの代表者と学校、環境整備の花いっぱいをやっておられるPTAの方と学校というように、全部1対1の対応になっています。できればこの機会にそれを学校評議員会を母体としながら、実際の活動をされているコーディネーターの方も入っていただいて、1つにまとめ、集約し、また、横のつながりもできるというメリットもあると考えております。

中西第2向陽小学校長：

本校の学校評議員には、学校の教育活動の目的やねらいなどをお話しした上で、そのためにこういう活動をしています。あるいは、不登校やいじめ、アンケートの状況、子どもたち様子についてもお伝えしご意見としていただいております。やはり、こういうふうな子どもたちに育てほしいという願いや思いなどを伺うことが多いように思います。そのため、令和5年度から本格的にスタートを予定されている学校運営協議会においても、どういう子どもに育てほしいか、どのように成長してほしいかという、そういう願いのところから地域の方々や実際に活動として色々ご協力いただく方々に伝え、そのためには、こういう体験をさせてあげたいので、こんな協力ができますという話がうまく進むと非常に学校教育活動が充実するものになると思っております。

私がこのコミュニティ・スクールの一つの取組みイメージがございまして、勝山中学校のように校訓がはっきり伝統的に言葉として掲げられているとい

うのが、実は小学校にはあまりございません。第2向陽小学校においても、いわゆる校訓というのがはっきりとしていません。そういう意味で、地域の方などに校歌の中に色々と開校当初の子どもたちがこういうふうになってほしいという願いは、校歌の中にかなり含まれています。そういったところを手がかりに、改めてこれからの子どもたちをどんなふう育てていこうと、きちんと学校の考えていることを伝え、そして、できればそういった願いを令和の新校訓といいますか、何か言葉に大きな目標として掲げ、地域総がかりで取り組むんだという何か大きな指針になるようなものがまとまり、それを基に、具体的な教育活動や新しい体験活動などに進んでいけたらと願いとしては思っております。以上でございます。

安田市長：

コミュニティ・スクールに向けて様々なご意見、考えもあると思います。今決めてしまうのではなく、その都度、修正しながらやっていけばいいと思います。

あと一つ、先ほどお伝えしたパブリックコメントでいいことは、それに対するこちらの意見を返すことができるということです。各学校の学校だよりを毎回熟読させていただいておりますけれども、行事予定を含め情報が多い。市の広報誌でもそうですが、情報を詰めたくなくなってしまいうんです。その中で、学校にこんな意見が寄せられて、我々がこう考えていて、こうしていこうと思っている。または、こうしましたというようなことを載せたらどうでしょうか。例えばコミュニティ・スクールを開いた後に、このような話があつて、こう取り組みます。また、ご意見がある方は、ここに書いてくださいとすれば、委員の方以外の意見も集められていいと思います。

永野教育長：

コミュニティ・スクールを導入したときは、そのメンバーだけの話で終わらせるのではなく、保護者に広がるようにということです。

先ほど奥村校長先生がおっしゃられた、それぞれ点でやっているという活動を、コミュニティ・スクールを活用すれば、線になり面になるというようなイメージですよね。確かに地域学校協働活動以外でも活動されておられる方がいるので、コミュニティ・スクールを使って、そこを全部上手にまとめることができるのではないかと、今お聞きして思いました。

安田市長：

今日はいろんなご意見をいただきました。これから来年度を目標にして、様々な取り組みを教育委員会もされ、その都度、進捗を聞きながら行って欲しいです。また、学校においても、いろんな考え方もあり、進め方もある。各地域によって事情も違うでしょう。特に第4向陽小学校や寺戸中学校は、新しい地域の方も多いのでその方を加え、実情に即したことをしていただければと思います。

冒頭でも言いましたが、作らないといけないから、作ったではいいものがない。まだ、始まったばかりなのでじっくり考えながらやっていきましょう。

それでは、次の議題2、「その他」ですけど、何かご意見ありますか。

令和4年度は、市制施行50周年と教育150年です。何かいいアイデアはありませんか。

中野委員：

コンサートはどうでしょうか。

安田市長：

市民会館が新しく建ちますので、それもいいと思います。

なかなか斬新なアイデアが思い浮かばない。教育150年もありますし、何かありますか。

畠山委員：

利用していたゆめパレアが閉館され残念です。ゆめパレアも先がまだ見えてない状況なので、市制施行50周年でもあるので、もっとポジティブな何かがあるといいなと思います。

安田市長：

ゆめパレアについては、就任当初から危険だと言われておりましたので、私が天井裏まで上がって直接現場を見ました。錆がひどく、かなりひどい状況でした。何を一番に考えたかというところ、けがが一番心配です。LEDに替え軽くしたり、対策はしてきましたが、プールは抜本的な対策が必要で、改修費用が約10億円かかると試算しております。市民の使用率は3割と少ない状況がございます。このプールについては、利用されていない方も含めアンケートで意見を聞こうと思っております。

畠山委員：

令和4年3月で一旦閉館して1年間検討されるのですか。

安田市長：

健康増進センターの方は、実施する予定です。

安田市長：

様々な立場からいろいろなご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。

私が一番感じているのは、市民の皆さんのニーズが変化しているので、それに合わせながら、行政でやるべきことを検討しやっていく。それは、市政運営も教育も同じだと思います。子どもたちにとって、どういう教育がいいのかを考えていただきたいと思いますので、どうかよろしく願いいたします。

本日はありがとうございました。

これで、令和3年度第1回向日市総合教育会議を終了いたします。